

次の文章を要約し、次に要約をふまえてあなたの意見を書きなさい。要約と意見は、それぞれ400字以内にまとめなさい。

新型コロナウィルスによる突然の休校で、子どもたちの間にオンライン学習が一気に広がりました。確かにメリットはあります。私も大学でオンライン講義をしていましたが、メールやチャットで質問をしてくる学生がぐっと増えました。教室で「質問は?」と尋ねてもシーンとしていましたが、オンラインなら目立たずに聞けるからでしょう。双方向のやり取りができる授業に活気が生まれます。でも、子どもの体と心に与えるリスクについて考えてほしいのです。

5月上旬に、福岡市のNPO法人「子どもとメディア」などと協力して、小学生の保護者1300人くらいに、インターネット上でアンケートをしました。全国に緊急事態宣言が出されていた4月20～25日のネット環境などを尋ねました。すると35%の子が、スマートフォンなどのICT(情報通信技術)機器を新たに使い始め、9割以上がネットを使えるようになっていました。背景の一つが学校や塾のオンライン授業や、自主的学習動画視聴などのオンライン学習によるもので、55%の子が取り組んでいました。

調査では「肩が凝る」「目が疲れる」「頭が痛い」など子どもの体調も尋ね、疲労度を算出して分析しました。テレビも含めたメディア接触が1日4時間超の子のうち、ゲームなどのオンライン娯楽が3時間以上の子と、オンライン学習が3時間以上の子を比べました。すると娯楽より学習の方が、疲労度の高い子の割合が3倍ほどという結果になりました。

画面を見ることによる目や精神の疲労に加え、集中が求められること、家庭の環境がオンライン学習に適していないことなどが要因ではないかと考えます。

一方で保護者は、学習のためならメディア接触が増えてもあまり気にしない傾向がみられました。でも、学習だからこそ、注意が必要です。スマホよりタブレット端末、タブレット端末よりパソコンと、出来るだけ画面の大きいものを使わせてほしいです。スマホしかないならせめて、画面を縦でなく横に使わせてほしいという眼科の先生もいます。人間の目は左右についているので、縦長は寄り目になって疲れるそうです。

教える側は、教室と同じようにしないことが大切です。普段の授業をただ配信するだけでは、子どもが疲れてしまいます。オンラインで短時間解説したら手元のプリントや問題集を解くなど、子どもが画面を見る時間をできるだけ短くしてください。低学年ほど負担が重いのでこまめな休憩が必要です。

文部科学省は今年度中に全国の小中学校に一人1台のパソコンやタブレット端末を配備するGIGAスクール構想を進めています。学習機会の最低保障として、必要だと考えます。端末だけでなく家庭の通信環境も保障すべきです。

国はオンライン学習の実態や子どもの心と体に与える影響をしっかりと調査研究してほしいです。その上で、次の大規模な休校に備えて負担の少ないオンライン学習のあり方を研究し、様々なリスクを避ける対策を練っておく必要があるのではないでしょうか。